

# CASBEE 新築[簡易版]

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	サンパーク岡田町	階数	地上14F
建設地	福岡県北九州市八幡西区岡田町9-	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	272人
気候区分	地域区分	年間使用時間	XXX時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年8月 予定	評価の実施日	2011年12月1日
敷地面積	2,861 m <sup>2</sup>	作成者	(株)アトム建築設計室 永山直美
建築面積	682 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	6,616 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: A: B+: B: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	地域交流センターに近接して計画される建物であり、まちなか居住を促進する集合住宅として未来を感じる環境にやさしいマンションを目指している。	その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価しにくい環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 温熱環境のショウエネルギー対策等級4を確保している。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 福岡県福祉のまちづくり条例の整備基準をみたしている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 太陽光発電を採用している。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 屋上緑化を採用している。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水コマ使用。 リサイクル資材の使用。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車台数 122%確保。 生ゴミ処理機設置。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい